

---

# GK情報レポート

【2023年発行】  
vol. 71  
秋号

発行者  
権田金属工業株式会社 営業部  
〒252-0212  
神奈川県相模原市中央区宮下 1-1-16  
電話 042-700-0221  
FAX 042-700-0660  
E-mail [eigy@gondametal.co.jp](mailto:eigy@gondametal.co.jp)  
<https://gondametal.jp>

## Contents

1. 高力黄銅・ネーバル黄銅棒の新サイズについて
2. 横浜伸銅の移転について
3. 職場紹介 総務部
4. 相場情報

皆様でご回覧下さい。

回覧印										
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※バックナンバー（Vol.1～70）を用意しております。ご希望の方は当社営業部までお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社

---



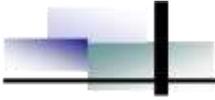
## 1. 高力黄銅・ネーバル黄銅棒の新サイズについて

当社では自社溶解工場にてビレットを鋳造する事により、在庫販売を行っている快削黄銅棒 (C3604) だけでなく、鍛造用黄銅棒 (C3712、C3771)、高力黄銅棒 (C6782)、ネーバル黄銅棒 (C4622、C4641) を製造・販売しています。

これまで高力・ネーバル黄銅棒は 115Φ 以上の鍛造サイズのみ製造していましたが、2 年前に新型ドローベンチを導入したことにより、高力黄銅棒に関しては新たに 60Φ～110Φ の圧延引抜サイズも製造可能となりました。

ドローベンチは材料を冷間引抜することで寸法精度や機械的特性などを整える設備です。新型は以前と比べて引抜能力が 4 倍になり、快削黄銅棒よりも硬い高力黄銅棒においても高品質な製品をお届けできるようになりました。ネーバル黄銅棒は現在鋭意開発中です。





---

2024 年末まで両品種の JIS 取得を目指し、良品製造の継続性を高めることに取り組んでいます。

当社の引抜棒は公差が±0.3%と他社の押出棒公差の±1%と比較しても高精度であり、また整直性にも優れ曲がりもほとんどありません。

高力黄銅は強度や硬さ、耐食性や靱性に優れており、またネーバル黄銅は耐海水性に優れ、特に海水の腐食に強いです。これらの特性を生かし、高力・ネーバル黄銅は古くから船舶用シャフトやプロペラ・ポンプ軸などに使用されてきました。

日本は食料自給率が低く天然資源が乏しい上に、国土全体を海に囲まれる海洋国家という観点から、安定的な海上輸送の確保は極めて重要な問題です。特に島国である日本は、輸出入のほぼ100%を海上輸送が担っています。また我が国の安全保障の観点から、海上警備を支える艦艇・巡視船は全て国内の造船会社が建造・修繕しており、造船業はわが国の安全保障においても必要不可欠な産業です。

2020 年の初頭以降、コロナの影響による巣ごもり需要の増加もあり、2022 年の半ばまで世界の海上輸送量が急激に増えました。その後、不動産規制の強化などによる中国経済の冷え込みや、脱コロナによる巣ごもり需要の減少(モノへの購買力低下)などにより、ここ 1 年ほど世界経済は停滞しています。

今後海運市況の回復が期待されていく中で、当社製品も日本製の船舶の部品の一部として活用されるよう、積極的に営業展開していきたいと思えます。  
まずはお気軽に当社営業員までお声掛け下さい。

記者 高橋

## 2.横浜伸銅の移転について

横浜伸銅株式会社は 1961 年に営業を開始した権田金属工業株式会社グループの非鉄金属販売子会社です。本年、設立 63 年目になります。本年 7 月に新社屋に移転しました。

銅・黄銅・アルミニウム・ステンレス・マグネシウム・その他金属材料や金属加工品を扱う会社です。

権田金属工業のグループ会社として伸銅品を販売しています。権田金属工業から仕入れた伸銅品等の金属材料を販売しているほか、バンドソー(帯鋸切断機)・チップソー(丸鋸切断機)・シャーリング切断機・薄板のビニール貼り機などを所有しています。また加工会社と協力し、レーザー切断・ウォータージェット切断・加工品全般(曲げ、穴あけ、切削、等)の販売も手掛けています。販売先は神奈川県一円および東京方面、全国へと拡大しております。

多品種・短納期・の提案営業により、需要家各位の利便性向上に努めてまいりました。また小回りが利くので、小口配送から何でも気軽にご相談ください。

当社では権田金属工業製の C3604B 低カドミウム材を在庫しており、切断販売も承っております。160Φ～最大径 350Φまで在庫切断販売しております。

全国どこへでも最短でお届けいたします。



このたび弊社は最新鋭の機械設備を 2023 年 11 月に導入いたします。これらを活用し、更なる真鍮丸棒の拡販を目指していき、より精度の高い製品に活かしてまいります。(460Φまで切断可能)

## 加工品製作例

銅ブスバー穴あけ加工品

加工内容：バンドソー切断、穴あけ、面取り加工





環境のもと、社員一同、心も新たに張り切っておりますので、  
今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新住所 〒224-0044 神奈川県横浜市都筑区川向町 1158-1

電話番号 045-620-0034

ファックス 045-620-0078

HP アドレス <http://yoko-shin.jp/publics/index/24/>

記者 松本／横浜伸銅株式会社



●公共交通機関を御利用の方

横浜市営地下鉄ブルーライン 新羽駅よりバス  
4 1 系統 大熊町バス停下車 徒歩 8 分

●車にてお越しの方

第三京浜 港北 IC 出口より 3 分

### 3.職場紹介 総務部

総務部は現在7名が所属しております。

社内の仕事環境を管理する総務業務と企業の資金を管理する経理業務を担当しています。

具体的な業務としては、人事・労務管理、会計管理、法務・行政対応、資産・物品管理、福利厚生、安全衛生など多種多様な業務を担当しておりますが、組織全体をサポートし、会社全体の仕事が円滑に進められるよう努めています。

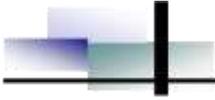
組織は人材が極めて重要ですので、採用活動にも力を入れています。毎年の新卒採用の一環として、各種学校の就職課を訪問し、先生方と面談しています。必要に応じて中途採用も行なっています。これらの採用試験の段取り、入社直後の安全教育等も全て総務部の業務の一つです。

経理関係では、インボイス制度が2023年10月からスタートし、電子帳簿保存法による対応が2024年1月から必須になるため、システム対応やインボイス制度・電子帳簿保存法に対する勉強会を開催し現在を迎えています。実際にやってみないと分からない所もあり円滑に進められるよう対応していきたいと思っています。

総務の仕事は、目立たない部分で働いている事が多く地味ではありますが、組織内のスムーズな業務遂行を支え、従業員が快適で安全な環境で業務に取り組めるようサポートしています。今後もより良い製品の生産・販売が出来るように、微力ながら貢献していきます。

記者 清水





---

## 4.相場情報

### 1. 電気銅建値推移

2023年7月・・・1,240円（スタート）（7月平均1,246.8円）  
2023年8月・・・1,310円（スタート）（8月平均1,266.0円）  
2023年9月・・・1,280円（スタート）（9月平均1,277.8円）  
2023年10月・・・1,280円（スタート）（10月平均1,241.5円）  
2023年11月・・・1,270円（スタート）

### 2. LME 在庫状況及び需要状況

国際銅研究会（ICSG）による2023年10月3日開催の総会で、今後の銅需要見通しを発表した。

世界の銅鉱石生産量は、前年対比で1.9%増、2024年は3.7%増と予測したが、前回（2023年4月開催）の総会発表時の3.0%から1.9%へ下方修正となった。主要原産国であるチリやペルーでの地域紛争による減産に加え、鉱山の操業低下、悪天候、地域住民の反対運動によるものが増加率減少の要因とされている。新たに操業開始する主な鉱山として、DR コンゴのカモア・カクラ鉱山、ペルーのケジャベコ鉱山、チリのケブラダ・ブランカ鉱山などが挙げられている。

銅地金の需給状況は、次の通りとなっている。

2023年の予測は、同年4月開催時で11万4千トンと推測していたが、今回の10月開催時で約2万7千トンの需要過多と予測修正とした。

2024年の予測は、同年4月開催時で29万8千トンと推測していたが、今回の10月開催時で約46万7千トンの供給過多になると予測修正した。

LME 在庫状況は、2023年9月上旬は13万5千トン台を推移していたが、9月下旬頃より15万トン台後半から16万トン台後半まで伸び、世界各国での銅需要減が見受けられる。10月に入り更に在庫量は増加し、11月上旬現在で18万トン台を推移している。

### 3. 為替の見通し

8月のドル円相場は、日銀の緩和長期化観測が高まったほか、堅調な米経済指標などを背景に、同月中旬にかけて146円台前半を推移していた。9月に入ると米経済指標は市場予想を上回る147円台後半となった。10月に入ると円安傾向はさらに強まり、10月中旬現在で約1年振りに150円台に突入した。

---

#### 4. 今後の見通し

中国経済次第な所はあるが、今後は再生エネルギーへの切替による銅需要が大きく見込まれる。夏場の電力不足や水不足で四川省では深刻な電力不足に見舞われた。それに伴い、中国全土では2025年までに1,200ギガワットの再生可能エネルギー供給に向けたインフラ整備が急務となっている。また電気自動車向けの銅需要増量や半導体関係の復活等、今後の銅需要に関して明るい話題は多いが、まずは中国市場の早急な回復が望まれている。

LME相場は10月に入ると7千900ドル台までさがっている。また為替も150円台を推移しており、当面は現状維持か緩やかな下げ傾向にある。

短期予測 (1M) LME \$7,900~8,300/t 為替 148~152円/\$  
銅建値 1,220~1,300円/kg

長期予測 (3M) LME \$7,700~8,400/t 為替 140~155円/\$  
銅建値 1,250~1,320円/kg

記者 小方

